編號	導覽主題	語導文案
0	導論 中正紀念堂について	歡迎來到中正紀念堂。 中正紀念堂落成於 1980 年，是台灣在戒嚴時期，為了紀念、緬懷曾擔任中華民國第 1 任至第 5 任總統的蔣中正所蓋的特殊時代建築。 中正紀念堂へようこそ。 中正紀念堂は、まだ台湾に戒厳令が敷かれていた 1980 年に落成しました。中華民国総統を初代から第 5 代まで務めた蒋介石を偲び、記念するために建造された、あの特殊な時代を象徴的に表す建築物です。 1987 年台灣解除戒嚴以來，無數的社會運動在此匯集，這個莊嚴肅穆的空間，逐漸轉化為人民力量集結的廣場，也將曾經服務於個人崇拜的紀念空間，重塑為全民共享的「自由廣場」。這段歷程見證了臺灣如何從黨國體制，轉型為自由開放的民主社會。 1987 年に戒厳令が解除されると、数え切れないほどの社会運動がこの場所で行われました。この厳粛で荘重（そうちょう）な雰囲気を持つ空間は、次第に民衆のパワーが集結する広場へと変容し、かつては個人崇拝のために建造されたこの記念碑的な場所が、全ての民衆が共有する「自由広場」へと変貌を遂げて、生まれ変わったのです。この歴史的過程は、台湾がどのようにして党国体制から自由で開放的な民主社会へと変化してきたのかを示しています。 如今，中正紀念堂正逐步轉型為「民主教育園區」。人們不再是為了歌頌強人而來，而是為了理解這段從黑暗走向光明的歷程。「自由花蕊」常設展，正是這場空間意義翻轉的具體呈現。展覽不僅呈現了前輩們爭取民主的艱難過程，更強調自由如同花蕊般燦爛卻也脆弱，需要每一代人的守護 。 現在、中正記念堂は徐々に「民主教育の場」へと変貌を遂げようとしています。人々は強権をふるう権力者を称賛するためではなく、暗闇から光明（こうみょう）へと向かった歩みを理解するために訪れるのです。常設展「自由の花」では、この場所の存在意義の転換が具体的に表したものです。この常設展では、先人たちが民主主義を勝ち取るために歩んだ困難な道のりが示されているだけでなく、自由は花のように輝かしくも儚く、世代を超えて守り伝えていかなければならないことを強く訴えています。

		這個常設展廳，有 2 個主題展覽，右邊是「自由花蕊」，左邊是「蔣中正總統與中華民國」，這兩檔看似反差極大的展覽，並存在同一空間，呈現不同視角的歷史，也顯現出台灣社會結構的特殊與民主自由的價值。 この常設展ホールで行われている展示には二つのテーマがあります。右側は「自由の花」、左側は「蒋介石総統と中華民国」です。同じ空間に存在するこの二つの展示は、一見すると対照的な内容に思えますが、異なる視点から歴史を見つめ直すことで、台湾の社会構造の特殊性や、民主主義と自由の価値を浮き彫りにしています。
1	入口意象 エントランスサイン	您眼前所看到大型投影動畫短片畫面中，一雙手孕育出象徵自由的花苞，它緩緩成長、盛開，化為人們爭取自由的書頁與筆桿，接著一個焚而不燬的身影，喚醒更多人站出來，聚集力量，一步步推動臺灣走向民主。這部動畫尾聲的日文歌曲〈長春花〉，是政治受難者高一生前輩創作，歌詞的大意是「花朵在微風中輕輕搖曳」，歌聲是結合政治受難者蔡焜霖前輩與高一生兒子高英傑不同時空的演唱，象徵民主力量在不同世代的交會與傳承。 這個展覽為什麼稱為「自由花蕊」？ こちらにある大型のスクリーンに映し出される短編アニメーションでは、両手の中で自由を象徴するつぼみがゆっくりと花開き、民衆が自由を勝ち取る戦いのために使う紙とペンに姿を変えます。そして、焼かれても燃え尽きることのない人影が、より多くの人々を目覚めさせて立ち上がらせ、皆のパワーを結集して、一歩ずつ台湾を民主化へと導いていきます。この作品のエンディングに流れる日本語の歌〈長春花〉（フロックスの花）は、白色テロの犠牲者である高一生（こう いっせい）さんの作品です。この歌詞には「そよ風に吹かれて揺れる花」が描写されています。歌っているのは、同じく白色テロの犠牲者である蔡焜霖（さい こんりん）さんと、高一生さんのご子息の高英傑さんです。時代を越えて歌声を合わせることで、民主主義のパワーの世代を超えた交わりと伝承を象徴的に表しています。 では、この常設展はなぜ「自由の花」と題されたのでしょうか？ 在世界各國爭取民主自由過程中，常以花朵為象徵寓意，例如台灣有賴和的詩作〈自由花〉、楊逵的小說〈壓不扁的玫瑰花〉，以及野百合學運、太陽花學運等等；還有突尼西亞的茉莉花革命、葡萄牙的康乃馨革命等等。為了讓來自各地的旅客認識臺灣對自由與民主的追求，所以展覽以「自由如花

		蕊」為寓意，作為不同文化人們可以共通的語言與象徵，讓臺灣與全球的民主經驗能彼此連結與對話。 世界各国で発生した民主主義や自由を求める闘いの中で、花はしばしばその象徴として用いられています。例えば、台湾には頼和（らい わ）の「自由の花」という詩や、楊逵（よう き）の「押しつぶせないバラの花」という小説があります。それから、野百合学生運動やひまわり学生運動などもありました。海外の例では、チュニジアのジャスミン革命、ポルトガルのカーネーション革命などがあります。世界各地からの訪問者に台湾の自由と民主主義を求める姿勢を理解してもらえるよう、この常設展では「花のような自由」というイメージを、異なる文化を持つ人々も共感し理解できる言葉として象徴的に使い、台湾と全世界の民主化運動の経験を互いにリンクさせ、対話を促しています。 接著，我們走入展場，看看臺灣如何在這塊土地開出美麗的「自由花蕊」。 それでは、展示室に入りましょう。台湾がこの土地でどのようにして美しい「自由の花」を咲かせたのかをご覧ください。
2	世界浪潮 I 世界的な潮流 I	展區入口的大型機器人，鏡頭注視、紅光感應每個經過的人，讓人無所遁形，機器人身體裡有著《全面控制》等描述國家監控的相關書籍。這座機器人象徵威權國家對人民無所不在的監視，就像白色恐怖年代的臺灣，在國家安全局的指揮下，八大情治機關彼此合作，以層層手段掌握人們的日常生活。 展示エリアの入口には、大型のロボットが立っています。カメラと赤外線センサーでここを通る全ての人々をチェックしているので、誰一人逃れることはできません。このロボットの身体には《全面的統制》など、国家統制に関する書籍が収められています。このロボットは、権威主義国による国民に対して行う厳格な監視体制を象徴的に表しています。まるで白色テロ時代の台湾のようです。国家安全局の指揮のもと、「八大情治機関」と言われた政府の情報機関が互いに連絡し合い、様々な手段を用いて人々の日常生活を統制していました。 機器人身體上有張 1953 年台灣的「各情報治安機關隸屬及工作關係表」，呈現當時的情報體系。這些情報機關名義上隸屬行政院及下屬各單位，但實際上負責指揮調度的是「總統府機要室資料組」。 ロボットの身体に貼られた 1953 年の「各情報・治安機関所轄及び協力関係一覧表」は、当時の台湾の情報機関を示しています。これらの情報機関

		は、名目上は行政院及びその各部門の傘下となっていましたが、実際には「総統府機要室資料組」が指揮を執っていました。 1950 年，蔣中正總統復職後，讓兒子蔣經國擔任「總統府機要室資料組」主任，後來，蔣經國推動將「總統府機要室資料組」改組為「國家安全局」，實為 1950 年代臺灣情報治安機關的總指揮。 1950 年、蒋介石総統が復職すると、息子の蒋経国を「総統府機要室資料組」の主任に任命しました。その後、蒋経国は「総統府機要室資料組」を「国家安全局」に改編しました。この国家安全局が 1950 年代の台湾において情報・治安機関の総指揮を執ったのです。
3	世界浪潮 II—國際民主大事記—1 世界的な潮流Ⅱ—世界の民主主義に関する主な出来事—1	在認識臺灣民主發展歷史之前，我們先來看看自由民主在世界各地掀起的浪潮。 台湾の民主化についてご紹介する前に、世界各地で巻き起こった、自由と民主化を求める流れを振り返ってみましょう。 二次世界大戰後，亞洲、非洲的許多殖民地紛紛擺脫原殖民國家的控制。短短 20 年間，約有 50 個殖民地成立了自己的國家，例如亞洲的印度、印尼，非洲的布吉納法索、波札那。 第二次世界大戦終結後、アジアやアフリカの多くの植民地はかつての宗主国の支配から次々に開放されました。わずか 20 年の間におよそ 50 の植民地が独立して、自分たちの独立国を樹立しました。例えば、アジアならインドやインドネシア、アフリカならブルキナファソやボツワナなどです。 到了 1970、1980 年代，南歐、東歐、亞洲等地也掀起民主化運動。例如 1974 年葡萄牙的「康乃馨革命」，年輕軍官發動政變，和平推翻持續近半世紀的獨裁政權。這場革命也加速葡萄牙在非洲的殖民地走向獨立。 1970 年代から 1980 年代にかけては、南ヨーロッパ、東ヨーロッパ、アジアなどでも民主化運動が盛んになりました。例えば、1974 年にポルトガルで発生した「カーネーション革命」は、若い将校たちがクーデターを起こし、半世紀近く続いていた独裁政権を平和的に打倒しました。この革命によってアフリカのポルトガル植民地の独立を加速させました。 再來看看跟台灣民主化過程很相似的韓國。韓國從 1947 年濟州四．三事件、1980 年光州 5·18 民主化運動，到 1987 年 6 月 29 日確立總統直接選舉的「民主化宣言」，是韓國邁向民主化重要關鍵。

		では次に、台湾の民主化のプロセスとよく似ている韓国の例を見てみましょう。韓国では 1947 年に発生した済州島四・三事件（チェジュドよんさんじけん）と、1980 年の光州事件（クァンジュじけん）と言われる民主化運動から、1987 年 6 月 29 日に発表され、総統の直接選挙を確立した「民主化宣言」までが、民主化への道を邁進した韓国では、重要な鍵となる出来事です。 緊接著，1989 年起，民主浪潮席捲原本受蘇聯共產鐵幕控制的國家，包括波蘭、匈牙利、羅馬尼亞等。這波浪潮以柏林圍牆倒塌、東德與西德統一為代表，東歐各國接連實現民主化。1991 年，蘇聯解體，更成為冷戰終結與全球民主化的重要里程碑。 そして 1989 年以降、民主化の流れは、鉄のカーテンの向こう側でソビエト連邦の統制下にあった共産圏の国々にを大きな影響を与え、ポーランドやハンガリー、ルーマニアなどにも押し寄せました。この潮流はベルリンの壁の崩壊と東西ドイツの統一に代表され、東欧諸国でも次々に民主化が達成されました。1991 年のソビエト連邦の解体は冷戦の終結を告げると同時に、世界的な民主化の潮流における大切な節目となりました。 這面牆列出二戰後國際間重大民主事件，您會發現，對民主自由與人權的渴望，是不分國籍種族的普世追求。 こちらのコーナーでは、第二次世界大戦以降に世界各地で発生した、民主主義に関する重要な事件を紹介しています。皆さんもお気づきでしょう。民主主義と自由、人権への渇望は、国籍や民族を越えた普遍的な願いなのです。
4	世界浪潮III—國際民主大事記—2 世界的な潮流Ⅲ—世界の民主主義に関する主な出来事—2	歷經冷戰及全球民主化浪潮後，21 世紀仍有許多人為自由與改革而努力。2010 年底，非洲突尼西亞一名 26 歲的小販自焚，抗議政府腐敗和高壓統治，點燃了「茉莉花革命」。示威抗議迅速蔓延全國，民眾要求總統下臺。面對國內外的巨大壓力，總統逃往沙烏地阿拉伯，結束長達 23 年的獨裁統治，也為中東和北非帶來民主的希望。 冷戦の終結と世界的な民主化の波を経てもなお、21 世紀を生きる多くの人々は自由と改革を求めて奮闘しています。2010 年末にアフリカのチュニジアで 26 歳の露天商が政府の腐敗や高圧的な政治体制に抗議して焼身自殺を図り、それをきっかけに「ジャスミン革命」が勃発しました。民衆によるデモや抗議活動が瞬く間に全国に広がり、人々は大統領の辞任を要求しました。国内外からの強大な圧力に直面した大統領はサウジアラビアに亡

		命し、23 年もの長きにわたった独裁政権に終止符が打たれ、中東と北アフリカにも民主化への希望をもたらしました。 這股民主浪潮，很快地吹到了隔壁的埃及。2011 年 1 月，埃及人民開始了屬於他們的「阿拉伯之春」，成千上萬民眾上街抗議政治腐敗，要求民主改革，在民怨與軍隊壓力下，總統穆巴拉克 2 月下台，結束長達 30 年統治；然而，埃及趕走獨裁者、短暫民主化後，又進入軍事獨裁，到現在埃及仍然在和民主奮鬥。 この民主化の潮流は隣国エジプトにもすぐさま伝わりました。2011 年 1 月、エジプト国民は自分たちの「アラブの春」を開始し、大勢の民衆が政府の腐敗に抗議するデモに参加して、民主化を要求しました。国民の怒りと軍部の圧力に屈したムバラク大統領は 2 月に辞任し、30 年の長きに及んだ独裁政権も終焉を迎えました。しかし、エジプトは独裁者を追放して一時的に民主化したものの、再び軍部による独裁が始まり、現在もエジプトの民主化への闘いは続いています。 在亞洲，1997 年，英國將香港主權移交北京，在「一國兩制」的承諾下，成為中國的一個特別行政區。但 2019 年香港政府推動修訂《逃犯條例》，允許將嫌犯送往中國且適用當地法律，許多人擔心異議人士的人身與言論自由將被限制。百萬市民上街抗議，提出撤回《逃犯條例》修訂草案、釋放被拘捕示威者、實現「真雙普選」等五大訴求，卻遭警方以催淚瓦斯和實彈鎮壓。之後香港政府通過《國安法》，使中國政府可以實質掌控香港事務，自由和自治受到嚴重干預，「一國兩制」承諾已無法真正落實。 アジアでは、1997 年にイギリスが香港の主権を中華人民共和国へ移譲すると、「一国二制度」が実施され、香港は中国の特別行政区になりました。しかし 2019 年、香港政府は『逃亡犯条例』の改正案を提出しました。これは容疑者の身柄を中国に引き渡して中国法を適用する規定で、多くの人々が反体制派の身体的自由や言論の自由が制限されるのではないかと不安に思いました。多数の市民がデモに参加して抗議し、『逃亡犯条例』改正案の撤回と、逮捕されたデモ隊の釈放、「真の普通選挙」の実施など、五大要求の実現を求めましたが、警察は催涙ガスや実弾を使ってデモの鎮圧を図りました。その後、香港政府により『香港国家安全維持法』が可決されたため、中国政府が実質的に香港に関する事柄を統制可能となり、香港の自由と自治は著しく侵害され、当初、確約された「一国二制度」を維持することは不可能となりました。

5	世界浪潮IV—臺灣民主大事記 世界的な潮流IV—台湾の民主化に関する主な出来事	在上方巨大眼球的窺視下，我們繼續來看臺灣民主發展的過程。 這段從威權到民主的路走得艱辛，我們先透過大事記，快速了解台灣如何成為今天的自由國家。 上に見える巨大な眼球の監視のもと、台湾の民主化への道のりを見ていきましょう。権威主義体制から民主化への道のりは非常に険しいものでした。まずは主な出来事を振り返りながら、台湾がどのようにして現在の自由な国になったのかを簡単にご説明しましょう。 1945 年，二次大戰結束後，國民政府接收台灣。但戰後民生困苦，政府不當施政，加上各種社會問題，1947 年「二二八事件」爆發，國民政府血腥鎮壓，很多人喪命或下落不明。 1945 年に第二次世界大戦が終結し、国民政府が台湾を接収しました。しかし、戦後の庶民の暮らしは貧しく、国民政府の不当な施政運営に様々な社会問題も重なり、1947 年に「二二八事件」が勃発しました。国民政府は武力を用いた弾圧を行い、多くの人々が死亡、または行方不明となりました。 為了鞏固統治，政府在 1949 年發布「戒嚴令」，開啟長達 38 年的戒嚴時期，白色恐怖長期籠罩臺灣社會。 政府は支配体制を確固としたものにするため、1949 年に「戒厳令」を発令し、38 年もの長きに及んだ戒厳令時代が始まりました。この間（かん）、台湾社会は長期にわたって白色テロの脅威にさらされました。 到了 1970 年代，「黨外運動」風起雲湧。接連發生中壢事件、橋頭事件、美麗島事件等；以及 1980 年代的林宅血案、陳文成案、江南案等等，引發了國內外越來越大要求改革的呼聲與壓力，政府終於在 1987 年 7 月 15 日正式解除戒嚴。 1970 年代になると、「党外運動」が激化しました。中壢事件（ちゅうれきじけん）、橋頭事件（きょうとうじけん）、美麗島事件（びれいとうじけん）などが立て続けに発生し、1980 年代には林氏一家殺害事件、陳文成教授事件、江南事件などが発生し、国内外から改革を求める声と圧力が日増しに高まり、1987 年 7 月 15 日、政府はようやく戒厳令を解除しました。 1990 年，國民大會試圖擴權，引發各界要求改革，其中，發生在中正紀念堂廣場的「野百合學運」是解嚴後最大規模的學運，是臺灣民主化進入一個全新階段的重要因素。

		1990 年、国民大会がその権限を拡大しようとしたため、各界から改革を求める声が上がりました。そうした中、中正紀念堂広場で「野百合学生運動」という戒厳令解除後最大規模の学生運動が起こり、台湾の民主化が新たな段階に歩みを進める重要な要素となりました。 1991 年，終止動員戡亂，《動員戡亂時期臨時條款》、《懲治叛亂條例》和《檢肅匪諜條例》先後廢止，卸除了限制民主的非常體制；1992 年，修訂《刑法》100 條，終結了「思想叛亂」、「言論叛亂」等罪名，臺灣終於迎來真正的言論自由。 1991 年に総動員体制が停止されるに伴い、「動員戡乱時期臨時条款」、「懲治叛乱条例」、「検粛匪諜条例」が相次いで廃止され、民主化を制限していた非常体制が撤廃されました。1992 年に『刑法』100 条が改正され、「思想的叛乱」や「言論的叛乱」などの罪名も廃止され、ついに台湾は真の言論の自由を獲得しました。 1996 年，第一次直接投票選出總統，同年台灣名列「自由國家」之林；2000 年，實現了第一次政黨輪替。 1996 年、初の直接選挙で総統が選出され、その年、台湾は「自由国家」のひとつに数えられるようになり、2000 年には初めての政権交代も実現しました。 回首台灣民主路，是許多人經過無數的衝撞、甚至犧牲自己的生命，才讓國家走向自由與民主。 在臺灣民主人物群像裡，讓我們先來認識「爭取百分之百的言論自由」的鄭南榕。 台湾民主化への道のりを振り返ってみると、数え切れないほどの衝突や、自らの命を犠牲にした人々がいます。そうした過程を経て、私たちの国は自由と民主主義への歩みを進めてきました。 「台湾の民主化に貢献した人たち」の中から、「100%の言論の自由を勝ち取ろうとした」鄭南榕（てい なんよう）についてまず紹介しましょう。
6	鄭南榕展區 I 鄭南榕— I	鄭南榕生於二二八事件爆發的 1947 年，早年從事國際貿易。 1979 年美麗島事件及後續發生的林宅血案、陳文成命案等，對他造成強烈衝擊，讓他看見黨國體制下的高壓迫害。女兒鄭竹梅出生後，他立志要讓下一代成長在自由民主的社會。

		鄭南榕は二二八事件が勃発した 1947 年生まれで、若い頃は海外貿易の仕事をしていました。 1979 年に美麗島事件が起こり、それに続く林氏一家殺害事件や陳文成教授殺人事件などの発生が鄭南榕に大きな衝撃を与え、党国体制下の熾烈な迫害を目の当たりにしました。娘の鄭竹梅が生まれると、次の世代が自由で民主的な社会で成長できるようにしようと心に誓いました。 牆上的照片中，鄭南榕站在臺灣人權促進會贈送的匾額前，匾額上「爭取言論自由，維護人權尊嚴」，正是他貫徹一生的信念。1984 年，鄭南榕以「爭取百分之百言論自由」為目標，創辦《自由時代》週刊並擔任總編輯。面對雜誌經常遭受政府查禁，他以各種方式靈活應變，例如他登記了好幾張不同名字的雜誌執照，如「自由時代」、「先鋒時代」、「民主時代」、「開拓時代」等等，這個被停刊了就換另一個名字出刊。 こちらのコーナーに展示されている写真の中に、鄭南榕が台湾人権促進会から贈られた扁額（へんがく）の前に立っている写真があります。この扁額に書かれている「言論の自由を勝ち取り、人権と人間の尊厳を守る」という言葉は、正に鄭南榕が生涯を通して貫いた信念そのものです。1984 年、鄭南榕は「100％の言論の自由を勝ち取る」ことを目標に、『自由時代』という週刊誌を創刊し、編集長を務めました。政府による検閲で幾度も出版禁止に追い込まれましたが、その度に機転を利かせて雑誌の発行を続けました。例えば、「自由時代」、「先鋒時代」、「民主時代」、「開拓時代」など、複数の異なる名義で雑誌の営業許可を登録しました。一つが発行禁止処分を受けると、また別の雑誌名で出版するという具合でした。 《自由時代》週刊在當時高壓政治下連續發行了 5 年 8 個月，共出版了 302 期，即使鄭南榕入獄也沒有停刊，創下臺灣黨外雜誌持續發行最久的紀錄。 週刊誌『自由時代』は、当時の高圧的な政治体制下で 5 年 8 ヵ月もの間、刊行を続け、合計 302 号を出版しました。鄭南榕が投獄されても刊行は途絶えず、台湾の党外雑誌の最長刊行記録を樹立しました。 為了追求台灣民主自由，鄭南榕除了出版雜誌，也付諸實際行動。例如 1986 年要求解嚴的「519 綠色行動」、1987 年「二二八平反運動」及 1988 年「新國家運動」等等，不僅挑戰了威權統治，更推動台灣的民主改革與本土意識。

		鄭南榕は台湾の民主化と自由を求め、雑誌の刊行以外にも具体的な行動を起こしました。 例えば、1986 年に戒厳令の解除を求めた「519 緑色行動」、1987 年の「二二八平反運動」、1988 年の「新国家運動」などが挙げられます。権威主義的支配に異議を唱えただけでなく、台湾の民主的改革の推進や、台湾人の本土意識の向上にも貢献しました。
7	鄭南榕展區 II— 鄭南榕—Ⅱ	解嚴後，主張臺灣獨立仍被政府當局視為叛亂行為，蔡有全與許曹德即因主張台獨在 1987 年遭到逮捕。為了聲援兩人，鄭南榕和黃華等人在 1988 年發起「台灣新國家和平改造運動」，簡稱「新國家運動」，以 40 天徒步環島的方式，走遍各地，宣揚台灣獨立理念。 戒厳令の解除後であっても、台湾独立を主張すると、叛乱を企てる行為と政府に見なされました。蔡有全と許曹徳は台湾独立を主張したため、1987 年に逮捕されました。鄭南榕や黄華（こう か）などの人たちはこの二人を支援するために、1988 年に「新国家運動」と略称される、「台湾新国家和平改造運動」を発足させ、40 日かけて徒歩で島内各地を巡り、台湾独立の理念を広めました。 同年 12 月 10 日世界人權日，《自由時代》刊登了許世楷的「台灣共和國憲法草案」(簡稱台灣新憲法草案)，隨後臺灣高等法院檢察處認為鄭南榕涉嫌叛亂，以傳票通知他出庭應訊。鄭南榕拒絕出庭，認為這是國民黨政府為了壓迫臺灣獨立主張而羅織罪名，並誓言「國民黨抓不到我的人，只能抓到我的屍體。」他自囚於《自由時代》雜誌社，辦公室內放置汽油與打火機，表明若遭到強制拘捕將以生命作為最後抗議。 その年の 12 月 10 日の世界人権デーに、雑誌『自由時代』に許世楷（きょせいかい）の「台湾共和国憲法草案」（略称「台湾新憲法草案」）が掲載されました。それから間もなくして、台湾高等法院検察処は鄭南榕に叛乱罪の疑いがあるとして呼出状（よびだしじょう）を送付し、裁判への出廷を命じました。鄭南榕は、国民党政府が台湾独立運動弾圧のために容疑をでっち上げたものだとして出廷を拒否しました。そして、「国民党は私を捕まえることはできない。捕まえられるのは私の死体だけだ。」と誓うとともに、自ら『自由時代』雑誌社に立てこもり、事務室にガソリンとライターを置いて、逮捕を強行するなら自分の命をかけて最後の抗議を行うと決意を表明しました。

		1989 年 4 月 7 日，奉命拘提的大批警力包圍雜誌社，不願被逮捕的鄭南榕將女兒託付給員工，鎖上總編輯室，引火自焚殉道，當年他 42 歲。 1989 年 4 月 7 日、雑誌社は強制連行を命じられた警察隊に包囲されました。拘束を拒んだ鄭南榕は娘を職員に預けて編集長室に鍵をかけ、ガソリンに火をつけて焼身自殺を図りました。自身の信念に殉じた鄭南榕は、42 歳という若さでした。 鄭南榕曾在獄中日記寫下：「我們是小國小民，但我們是好國好人。」他曾是平凡的人，有家人與朋友，懷抱夢想，也珍惜日常。 鄭南榕は獄中日記に次のようなことを記していました。「我々は小国の小国民だが、良国（りょうこく）の良民（りょうみん）である。」もともと鄭南榕は家族や友人に囲まれ、夢や理想を抱き、日々の暮らしを大切にする、ごく普通の人でした。 眼前這個被火燒得焦黑的辦公室，就是將鄭南榕自焚殉道的總編輯室重新復刻；旁邊展示台上有鄭南榕的女兒鄭竹梅在 1989 年寫給父親的話：「爸爸走了以後，我心裡就像生菜沙拉醬，酸酸甜甜的」、「爸爸像太陽一樣，如果太陽不見了，我會哭，我會叫，但還是叫不回太陽」。那年她才 9 歳。 今、皆さんがご覧になっている、焼け焦げて真っ黒になった事務室は、鄭南榕が焼身自殺した編集長室を再現したものです。その傍らにある展示台には鄭南榕のご息女 鄭竹梅さんが 1989 年に父宛てに書いた文章が展示されています。「お父さんが亡くなってからというもの、私の心はサラダドレッシングみたいになってしまいました。酸っぱくて甘いのです。」「お父さんは太陽のようです。太陽が見えなくなったら、私は泣いてしまうし、叫んでしまうでしょう。それでも太陽を呼び戻すことはできません。」その年、鄭竹梅さんはわずか 9 歳でした。
8	噤聲年代 I 声を封じられた時代 I	這裡是「噤聲年代」展區，我們將走進臺灣戒嚴時期的歷史長廊。從 1949 年到 1987 年，長達 38 年的時間裡，思想與言論受到箝制，人們雖然能說話，卻難以自由發聲；即使可以行動，也處處受限。 こちらは「声を封じられた時代」のセクションです。これから台湾の戒厳令時代の歴史をたどってみましょう。 台湾は 1949 年から 1987 年まで 38 年もの間、思想と言論が厳しく制限されていました。話をすることはできましたが、自由に声を上げることはできず、行動できたとしてもやはり様々な面で制限がありました。

		唱卡拉 OK 是今日很多人的日常娛樂，想唱什麼就唱什麼，詞曲創作人或歌手也能自由創作或演唱，不受任何限制。但在戒嚴時期，政府實施歌曲審查制度，歌曲的發行、播送與傳唱，由不同機構分工執行各種審查與管制，審查結果的後續管制形式也各有不同，例如：強迫改寫歌曲、禁止公開播放、禁止公開演唱，甚至禁止發行等等。 多くの人たちにとってカラオケは今でも日常的な娯楽の一つで、何でも好きな歌が歌えますし、作曲家や作詞家、歌手もまた自由に創作して歌うことができ、何の制限もありません。しかし、戒厳令時代は政府により音楽の検閲制度が実施されていました。歌曲の発行、放送や演奏は、それぞれ異なる機関によって審査や統制が行われ、審査結果に基づくその後の統制措置も様々でした。例えば、歌曲を書き換えるよう強制されたり、放送禁止や公の場での歌唱の禁止、発行禁止になることもありました。 1973 年，歌曲管制與審查改由行政院新聞局負責；到了 1979 年，更規定歌曲唱片都要先送新聞局審查，通過後才能發行與公開演唱。出入新聞局成為音樂人的日常，例如，知名詞曲創作者陳和平 1981 年 5 月 8 日在日記寫下：「一早我先送一些稿去新聞局審查，之後再到咖啡廳寫一些歌詞。」 1973 年、歌曲の統制と審査は行政院新聞局により行われることになりました。1979 年、全ての楽曲やレコードはまず新聞局で審査を受けることが規定され、審査を通過してから発行が可能となり、公の場での演奏も許可されることになりました。新聞局に出入りするのが音楽業界の人たちの日常になったのです。例えば、有名な音楽家の陳和平は 1981 年 5 月 8 日の日記に次のように書いています。「朝早くにまずいくつかの原稿を審査のために新聞局に送り、その後、喫茶店に行って少し歌詞を書いた。」 這條禁歌走廊展示了 5 首當年曾被禁的歌曲，例如郭金發演唱的「燒肉粽」，因為貼近底層現實、反映失業與生活困苦，而被查禁；其他還有五花八門被禁理由，例如意識左傾，為匪宣傳；詞句頹喪，影響民心士氣；文詞粗鄙，輕佻嬉罵；幽怨哀傷，有失正常等等。您可以點選螢幕上的歌曲，聽一聽當年被查禁的音樂作品。 こちらの「禁止された音楽」のコーナーでは、当時、発禁処分を受けた 5 曲の歌についてご紹介しています。例えば、郭金発が歌った「焼肉粽」という歌は、労働者階級の現実や失業、生活苦などが表現されているため、発禁処分となりました。その他の曲も禁止された理由は様々です。「思想的に左派よりで、中共の宣伝をしている。」「歌詞が退廃的すぎて、庶民の心情や士気に悪影響を与える。」「言葉遣いが下品で軽薄、悪ふざけが

		すぎる。」「憂鬱で悲痛な表現が度を越えており、国民のあるべき状態ではない。」…などです。こちらでは、当時、発禁処分を受けた音楽を聴くことができますので、モニターで気になる曲を選んで、ぜひ聴いてみてください。
9	噤聲年代 II 声を封じられた時代Ⅱ	戒嚴時期，政府以「國家安全」為名實施嚴密監控，也鼓勵人民互相監視及檢舉，讓整個社會充滿猜忌與恐懼。除了歌曲的管制與查禁外，許多現在看來稀鬆平常的事，在當時都被禁止或限制。 例如管制頭髮長度的「髮禁」，規定男生以蓄平頭為原則，女生不能燙髮、髮長不能超過後頸髮根。 戒厳令時代、政府は「国家の安全」を名目として厳格な監視体制を敷き、国民を互いに監視させ、通報することを奨励していたので、社会全体に猜疑心や恐怖感が満ちていました。音楽の統制や発行禁止処分だけでなく、現在ではごく当たり前のことでも当時は禁止されたり、制限されたりしました。例えば、髪の毛の長さを規制する「髪禁」という規則がありました。原則として男性は坊主頭、女性はパーマ禁止、髪の長さは襟足を超えてはいけないと定められていました。 此外，如果想去爬山，因為實施「山地管制」，必須先辦理入山證才能成行；如果想在外過夜，則因為「宵禁」而不能有人、車在外面移動；若想出國旅遊，還有「入出境管制」，光申請護照就困難重重。 このほか、山登りをしたい場合は、「山地管制」が実施されていたので、登山の前に必ず入山証を申請しなければなりませんでした。夜間に外出したくても、「宵禁」という夜間外出禁止令があったので、夜は人も自動車も街中の移動は許されませんでした。海外旅行へ行く場合も「出入国管制」があり、パスポートの申請だけでもたいへんな苦労がありました。 當時政府還積極推行「國語運動」、壓制臺灣本土語言，要求學校及公家機關加強國語使用，學校並將其列入對學生的考核，學生在學校講「方言」會被處罰；電影院則限制放映台語電影，讓盛極一時的台語片因發展受限而逐漸沒落，長期下來，對本土語言與文化發展影響極大。 当時の政府は「国語運動」を積極的に推進して、台湾固有の言語の使用を制限し、学校や公的機関にも国語である標準中国語を使用するように強く求めていました。学校では生徒の評価項目の一つとされ、校内で「方言」を使って話したら罰せられました。映画館でも台湾語の映画の上映が制限

		されたため、一時期大流行した台湾語の映画も徐々にすたれてしまい、長期的には台湾の言語と文化の発展に大きな影響を与えました。
10	噤聲年代 III 声を封じられた時代Ⅲ	接下來，走進這個有冷冷燈光、經過時還發出像被跟蹤腳步聲的小空間，前方螢幕播放的是《幽暗小徑的鬼》，這是導演王登鈺以白色恐怖為背景所創作的動畫短片，影片內容描繪在威權時代仍勇敢主張理念的施水芳與奉命監控她的特務兩人間的故事。王登鈺導演以帶有油畫質感的動畫風格，深刻描繪人在光明與黑暗間的拉扯。這部影片曾榮獲全球最大奇幻影展─西班牙錫切斯影展最佳動畫短片獎。 続いて、この冷ややかな灯りに照らされた、誰かにつけられているような足音が聞こえる小さな空間へ進んでみましょう。手前にあるモニターで『薄暗い小道の幽霊』が放映されています。この作品は、王登鈺（おう とうぎょく）監督が制作した、白色テロを背景にしたオリジナル短編アニメーションで、権威主義時代に勇敢にも自らの理念を主張した施水芳と、彼女を監視する特務機関の男性の物語です。王監督は油絵のようなタッチで、人の心の中にある光と闇の葛藤をリアルに描いています。この作品は、世界最大級のファンタジー映画祭―スペインのシッチェス・カタロニア国際映画祭で最優秀短編アニメーション賞を受賞しました。 前面這個懸掛著一幅著軍裝、看不清面孔長相的油畫作品的空間，是模擬白色恐怖時期的「審訊室」。這幅畫作是政治受難者陳武鎮創作的「爪與牙」，您再看一下這個「審訊室」四周牆壁的裝設，包括：地毯、監視孔/

		窗、監聽器、窗簾、吸音板等，是審訊室常有的配備，而全天燈火通明的狀態，讓人失去時間感，產生混亂。 軍服を着た、顔のわからない人の油絵が展示されているこちらの部屋は、白色テロ時代の「取調室」を再現したものです。この絵は、白色テロの受難者である陳武鎮さんが描いた「爪と牙」という作品です。この「取調室」の壁や設備をもう一度よく見てください。カーペット、監視用の窓やのぞき穴、盗聴器、カーテン、吸音板（きゅうおんばん）など、取調室によくある物が見られます。また、一日中照明が消えない環境におかれたので、時間の感覚を失い、精神的な混乱をきたしました。 在白色恐怖時期，全臺各地設有多處秘密審訊空間，政府在這些地方留置、關押、審訊甚至刑求政治犯，其中比較知名的，是位於新北市新店區安坑的不義遺址「安康接待室」。 白色テロの時代には、台湾各地に秘密の尋問施設が設置されていました。政府はそれらの場所で政治犯の留置や拘禁、尋問などのほか、拷問による自白の強要まで行っていました。その中でも特に有名なのが、新北市新店区安坑に位置する負の遺産「安康接待室」です。 桌上擺放的是曾任民進黨黨主席黃信介被關押時的自白書；因美麗島事件入獄的陳菊，也曾經被送到安康接待室。陳菊回憶時說：「我一進去就分配一個偵訊室，偵訊室裡面他們一組大概都是三個人，連續大概 72 小時，一直開始就對美麗島事件所有的過程問話。三天之中，我一直就在偵訊室，那當然是一個非常痛苦難熬，然後到第三天以後才到我的押房」。 机の上には民主進歩党の元主席 黄信介が収監されていた時の自白書が置いてあります。美麗島事件で投獄された陳菊も安康接待室に送られたことがあります。陳菊は当時を振り返って次のように述べています。「入るとすぐに取調室に連れて行かれました。取調室にいる人たちはだいたい三人一組で、72 時間ぶっ続けで美麗島事件の経緯について聞かれました。私は三日間ずっと取調室にいました。もちろんそれは耐え難い苦痛でしたが、三日後にようやく監房に移されたんです。」
11	臺灣言論自由之路 I	在看過台灣戒嚴時期的各種禁令與監控手段後，您是否好奇，台灣是怎麼走到現在的民主自由國家呢？

	台湾における言論の自由への道 I	戒厳令時代に実施されていた様々な禁止令や監視、統制などをご覧になって、台湾は一体どのようにして今の自由で民主的な国になったのだろうと思われませんでしたか。 台灣現今的民主自由，是無數前輩、橫跨好幾個世代、不分省籍族群的先行者，在追求民主的「自由之路」上不斷衝撞、對抗威權、甚至犧牲生命所爭取來的。 現在の自由で民主的な台湾は大勢の先人たちが何世代もかけて、出身地も民族も関係なく、民主的な「自由への道」を歩む中で幾度となく権力と対立し、権威主義に抗い、時には命を捧げることで、ようやく勝ち取ったものなのです。 我們先從這面有銀色金屬片的宣言牆開始看起。 まずはこちらの銀色の金属片が貼られた「宣言の壁」から見ていきましょう。 牆上展示了 1949 年楊逵的〈和平宣言〉、1964 年彭明敏、謝聰敏與魏廷朝起草的〈台灣人民自救運動宣言〉、1977 年台灣基督長老教會的〈人權宣言〉，可以看出，社會文化力量、國家和平安全、主權獨立與民主自由，是這 30 年間，不同世代接力傳承的民主呼聲。 この壁には 1949 年に楊逵が書いた「平和宣言」と、1964 年に彭明敏と謝聡敏、魏廷朝が起草した「台湾人民自救運動宣言」、1977 年に台湾基督長老教会が発表した「人権宣言」が展示されています。社会文化のパワー、国家の平和と安全、主権と独立、そして自由と民主主義は、過去 30 年にわたり、世代を超えて受け継がれてきた民主化を求める声だということが、おわかりいただけるでしょう。 接著，讓我們一起了解這段漫長又艱辛的臺灣言論自由之路。 次に、台湾が歩んできた言論の自由への長く険しい道のりを振り返ってみましょう。
12	臺灣言論自由之路 II—1945-1949 戰後	二戰結束後，國民政府接收臺灣，同時引進「一黨訓政」體制，並逐步加強對言論的控制。1947 年，「二二八事件」爆發，國民政府除了血腥鎮壓人民抗議，也進一步收緊臺灣的言論自由。許多報導二二八事件的報社被查封及停刊，記者和負責人相繼被通緝或抓捕後就下落不明，新聞界遭到整肅。 第二次世界大戦終結後、台湾を接収した国民政府は「一党訓政」体制を導入し、言論統制を徐々に強化していきました。1947 年には「二二八事件」

	初期的言論整肅 台湾の言論の自由への道 Ⅱ—1945-1949 戦後初期の言論弾圧	が勃発しました。国民政府は抗議する民衆に対して武力による激しい弾圧を行いました。台湾の言論の自由への道はまた一歩遠のいたのです。「二二八事件」を報道した多くの新聞社が強制執行により閉鎖され、廃刊となりました。新聞社の責任者や記者たちの中には指名手配された人もいれば、逮捕された人、行方不明になった人もいます。このようにして報道機関への弾圧が始まりました。 1949 年 1 月，上海《大公報》刊登楊逵起草的〈和平宣言〉，宣言裡的各項訴求觸怒國民黨政府。楊逵在 4 月 6 日遭到逮捕，當時並未戒嚴，卻遭送軍法審判判處 12 年有期徒刑。這一天也發生戰後軍警第一次直接進入校園逮捕學生的案件，起因是臺大與師院學生共乘單車被警察取締，最後演變成學生集結抗議。為了壓制學生運動，警備總部要求校方交出學生，軍警直接進入校園逮捕學生，史稱「四六事件」，可說是校園白色恐怖的開端。 1949 年 1 月、上海の『大公報』という新聞に楊逵が起草した「和平宣言」が掲載されると、この宣言の各項目の要求が国民党政府を激怒させ、楊逵は 4 月 6 日に逮捕されました。当時はまだ戒厳令は敷かれていませんでしたが、軍事法廷へ移送され、懲役 12 年の判決を受けました。また、この日は戦後初めて軍と警察が大学キャンパスに踏み込んで、学生を逮捕した日でもあります。その発端は、自転車に二人乗りしていた国立台湾大学と台湾省立師範学院の学生が警察に捕まったことで、最終的には学生たちが集結し、警察に対して抗議する事態にまで発展しました。警備総部は学生運動を鎮圧するため、大学側に学生の引渡しを要求し、その後、軍と警察が大学に踏み込み、大勢の学生たちを逮捕しました。この事件は「四六事件」（よんろくじけん）と呼ばれ、大学における白色テロの幕開けと見なされています。
13	臺灣言論自由之路 III— 1950s-1970s 言論自由的限縮 台湾の言論の自由への	1950 年韓戰爆發，美國為了穩定亞洲局勢，派遣第七艦隊協防臺灣，也穩固了國民黨政府的統治。但這並沒有讓執政當局勵精圖治，反而持續侵害人民的自由與人權，加強對言論的控制，各類報刊被查禁的狀況屢見不鮮。即使當時黨政關係相對良好的《自立晚報》，在 1950 年代也難逃言論打壓，曾三度被停刊。雷震主導的《自由中國》半月刊，多次刊登挑戰政府當局底線的言論，最後在 1960 年雷震被捕後，而隨之停刊。 1950 年に朝鮮戦争が勃発すると、アメリカはアジア情勢の安定を図るため、第七艦隊を派遣して台湾の防衛に協力したことから、国民党政府の支配体制も強化されました。しかし、このことも国民党政府が心を入れ替えて政治に取り組むようにはならず、人々は自由を奪われ、人権侵害も続

	道 Ⅲ—1950s-1970s 言論の自由の制限	き、言論統制が一層強化されて、各種新聞や雑誌が発行禁止処分を受ける状況がいたるところで見られました。当時、党や政府と比較的良好な関係を築いていた『自立晩報』も 1950 年代の言論弾圧から逃れることはできず、3 度も廃刊に追い込まれました。雷震が発行していた半月刊誌『自由中国』は当局から規制されかねない際どい内容の記事を何度も掲載していましたが、1960 年、ついに雷震が逮捕されると、『自由中国』も廃刊となりました。 1964 年，彭明敏、謝聰敏、魏廷朝起草〈台灣人民自救運動宣言〉，提出「一個中國、一個臺灣」、「建立新國家、制定新憲法」、「以新會員國身份加入聯合國」、人民自由選舉產生政府等訴求。三人因此遭到逮捕，謝聰敏被判刑 10 年，另外兩人則被判刑 8 年。1970 年，彭明敏喬裝逃出臺灣、流亡海外，政府因此將矛頭指向剛出獄的謝聰敏與魏廷朝，持續迫害。螢幕上「民主人物特寫」輪播內容有彭明敏等三人及其他前輩的故事，請慢慢觀看。 如果想多了解謝聰敏，請按 1301；李敖，請按 1302；柏楊，請按 1303。 1964 年、彭明敏（ほう めいびん）、謝聡敏、魏廷朝が「台湾人民自救運動宣言」を起草し、「一つの中国、一つの台湾」「新国家の樹立、新憲法の制定」、「新規加盟国として国連に加盟」、自由選挙による国会の開設などを訴えました。しかし、三人とも逮捕され、謝聡敏は懲役 10 年、他の二人は懲役 8 年の判決を受けました。1970 年、彭明敏は変装して台湾を脱出し、海外へ亡命しました。そこで政府は出所したばかりの謝聡敏と魏廷朝に矛先を変え、迫害を続けました。こちらのモニターで放映されている「民主化運動の重要人物」では、彭明敏をはじめとする三人のほか、先人たちの事績を紹介しています。ぜひとくとご覧ください。 謝聡敏について詳しくお知りになりたい方は、1301 を押してください。李敖（り ごう）は 1302、柏楊は 1303 です。
1301	謝聰敏 謝聡敏	謝聰敏在戒嚴時期曾經兩度入獄，第一次在 1964 年，因為起草〈臺灣人民自救運動宣言〉，第二次在 1971 年，被政府誣陷涉入美國商業銀行爆炸案；但謝聰敏並沒有因身處牢獄而屈服退縮，他在入獄期間，嘗試建立地下通訊管道，出獄後，亦持續與獄中的其他受難者合作，蒐集政治犯資訊，輾轉將受難者名單傳往海外，戳破執政黨當局宣稱臺灣沒有政治犯的謊言，讓國際認識臺灣人權受到迫害的事實。

		謝聡敏氏は戒厳令の時代に 2 回も投獄されました。1 回目は 1964 年で、「台湾人民自救運動宣言」を起草したことが原因でした。2 回目は 1971 年の、バンク・オブ・アメリカ爆破事件に関与したと、政府に陥れられたのが原因でした。しかし、謝聡敏は監獄の中でも屈することはなく、服役中にも秘密裏に連絡手段を持とうとしました。出獄後も獄中の仲間たちと協力して、政治犯に関する情報を収集し、被害者の名簿を海外に手渡し、それまで「台湾に政治犯はいない」としていた政府の嘘を暴き、台湾で行われている人権侵害を世界に知らしめました。 然而，在第二次出獄後，謝聰敏受到情治單位的嚴密監控、百般刁難，只好選擇流亡美國。他在海外仍持續投入政治犯救援運動，直到 1988 年才終於能夠返回臺灣。 しかし、2 回目の服役を終えて出所してからは、情報機関による厳重な監視と、数々の嫌がらせにより、米国に亡命するしか道はありませんでした。謝聡敏は海外でも政治犯の救済活動を継続し、1988 年になってようやく台湾に帰国することができました。 此後，謝聰敏持續投入臺灣民主改革，致力於轉型正義，在他擔任立委的任內，催生《戒嚴時期人民受損權利回復條例》，促使國家為戒嚴時期遭受損害的人民權利做出賠償。1998 年，極力爭取跨黨派立委的支持，最終促成《戒嚴時期不當叛亂暨匪諜審判案件補償條例》通過立法，進一步擴大國家對政治受難者的賠償範圍，對於臺灣的轉型正義有相當大的貢獻。 その後も謝聡敏は台湾の民主化運動に身を捧げ、真の民主政治が行われるよう力を尽くしました。謝聡敏は日本の国会議員に相当する立法委員の任期中に「戒厳時期人民受損権利回復条例」を世に問い、戒厳令下に権利を侵害された人々への国家による賠償を促しました。1998 年、超党派の立法委員の支持を可能な限り獲得した結果、『戒厳時期不当叛乱および匪諜審判案件補償条例』が立法院で可決されて、国家による元政治犯への賠償の範囲が更に拡大され、台湾が真に民主国家に転換するのに大きく貢献しました。
1302	李敖 李敖	李敖為人狂放，筆鋒犀利，可說是為批判而生的反對者。李敖在 1960 年代擁護胡適的文化主張，以蕭孟能主持的《文星》雜誌和「文星書店」為基地，大力引進自由主義思想，進而引發「中西文化論戰」。他也撰寫文章，尖銳批判國民黨的文化思想及黨國史觀，導致《文星》雜誌停刊，文星書店改組。

		之後，李敖因被當局認為協助台大教授彭明敏的逃亡計畫，1971 年，又遭當局指控涉入美國商業銀行爆炸疑案，被判刑關押。李敖出獄後，他繼續出版雜誌和書籍，以批評時政的雜誌文章活躍於文界，儘管執政黨當局一再封殺查禁，李敖在那個眾人噤聲的年代，仍持續勇敢、堅定的發聲。 李敖氏は自由奔放で何物にも縛られない人でしたが、筆鋒は鋭く、批判のために生まれたような反体制派でした。1960 年代、李敖は胡適の文化面での主張を擁護し、蕭孟能氏が代表を務める雑誌『文星』と「文星書店」を根城として、積極的に自由主義思想を紹介していましたが、それをきっかけにして「中西文化論戦」が発生しました。李敖も文章を発表し、国民党の文化思想と党国史観を厳しく批判したことにより、雑誌『文星』は発行停止となり、文星書店も組織改革が行われました。 その後、李敖は台湾大学教授彭明敏氏の逃亡計画を幇助したとされ、1971 年には、バンク・オブ・アメリカの爆破事件にも関与した罪で、懲役刑を言い渡されました。出所後も雑誌や書籍の出版を続け、政府を批判する文章や雑誌の出版により文壇で活躍しました。政府国民党は常に検閲を行い、言論封殺を続けましたが、李敖は誰もが口をつぐんで多くを語ろうとしなかった時代に、確たる信念と勇気をもって声を上げ続けました。
1303	柏楊（郭衣洞）案 柏楊（郭衣洞）案	作家郭衣洞在《自立晚報》擔任專欄作家，以「柏楊」為筆名，批判時政，遭警備總部關切，警總也數度向《自立晚報》發行人吳三連施壓，要求報社開除柏楊。 作家の郭衣洞氏は柏楊というペンネームで、『自立晚報』という新聞にコラムを書いていましたが、政府を批判したことにより、台湾警備総司令部に目をつけられていました。台湾警備総司令部は『自立晚報』の発行者である呉三連に何度も圧力をかけ、柏楊に執筆させないように要求しました。 1968 年柏楊翻譯了一則美國漫畫「大力水手」，情節是卜派父子流亡到小島，父親要發表「告全國同胞書」。這則漫畫被認為在嘲諷蔣中正、蔣經國父子，所以當局下令調查。在判決書上，柏楊被指控加入非法組織，利用寫作「打擊國家領導中心」、「挑撥政府與人民之間情感」，判刑 12 年。依據後來監察院的調查報告顯示，蔣經國曾介入柏楊的判決。 1968 年、柏楊は米国の漫画「ポパイ」を翻訳しました。その漫画では、ポパイ親子が小さな島に流れ着き、父親が「全国の同胞に告ぐ」という文書を発表します。その場面が蒋介石と蒋経国を風刺していると見られ、政府は調査を命じました。判決文には、柏楊は非合法組織に加わって、文筆に

		より「国家の中枢を攻撃」、「政府と人民の関係を悪化させようとした」との理由で、懲役 12 年の判決が下されました。後（のち）に行われた監察院による調査報告によれば、蒋経国氏が柏楊の判決に介入したと指摘しています。 柏楊先被關押在新店的景美看守所，1972 年被移監至綠島。因蔣中正逝世後全國減刑，柏楊服刑期滿，但當局政府並未釋放他，繼續將他留在獄中「擔任教官」，直到美國政府與國際特赦組織聲援，才於 1977 年恢復自由。 柏楊はまず新店市の景美看守所に収容され、1972 年に緑島の強制収容所に移されました。その後、蒋介石が死去したことにより、全国で減刑が行われましたが、刑期満了となっても政府は柏楊を釈放せず、獄中で「教官」を務めさせました。その後、米国政府とアムネスティ・インターナショナルの働きかけによって、1977 年にようやく自由を取り戻しました。 解嚴後柏楊投入人權事務，積極為設置綠島人權紀念碑奔走。現在綠島人權紀念園區的垂淚碑牆，刻有柏楊親身見證的題字：「在那個時代有多少母親，為他們囚禁在這個島上的孩子，長夜哭泣」。 戒厳令が解除されると、柏楊は人権問題に関する活動に身を投じ、緑島人権紀念碑建立のために奔走しました。現在、緑島人権紀念園区にある垂涙碑には柏楊自筆の題字。「あの時代、何人の母親が、この島に監禁された子供らのために、長い夜を泣き明かしただろう」と彫られています
14	臺灣言論自由之路 IV—1970s-1980s 黨外運動崛起 台湾の言論の自由への道 IV—1970s-1980s 党外運動の勃興	1970 年代，國民黨政府面臨嚴峻的國際情勢。 1971 年，中華人民共和國取代中華民國在聯合國的中國代表席次。1975 年 4 月蔣中正總統過世，蔣經國接班。1979 年 1 月美國與中華民國斷交。面對風雨飄搖的國際情勢，號稱「黨外」的國民黨以外之有志人士提出政治改革訴求，不僅將意見與評論發表在報刊雜誌上，也付諸行動。 1970 年代、国民党政府は非常に厳しい国際情勢に直面していました。 1971 年、中華民国に代わって中華人民共和国の中国代表権が認められました。1975 年 4 月、蒋介石総統が逝去し、蒋経国がその後を継ぎました。1979 年 1 月、アメリカは中華民国と国交を断絶しました。激動する国際情勢に直面する中、「党外」と言われる非国民党員の人々は政治改革を求め、新聞や雑誌で意見や論評を発表するだけでなく、具体的な行動に出ました。 這時，政府持續打壓主張政治改革的言論。代表性刊物都遭到嚴厲處置，例如《大學雜誌》被強制改組，本土菁英創立的第一份黨外雜誌《臺灣政論》

		則被迫停刊。然而，黨外運動並未受挫，其中 1979 年「美麗島事件」引發國際高度關注，也迫使本案採取公開審判。軍法大審期間，8 名被告在法庭上慷慨陳詞，透過媒體連續好幾天大篇幅報導，讓國內外人士更了解政治改革的訴求及自由民主的理念。 この時期も政府は政治改革を主張する言論を弾圧し続けました。代表的な刊行物は全て厳格な処分を受けました。『大学雑誌』は強制的に改編され、台湾の若い知識人たちが創刊した初の党外雑誌『台湾政論』は発行が禁止されました。しかし、党外運動はこれで力尽きることはありませんでした。その中でも 1979 年に発生した「美麗島事件」は国際的に大きな注目を集めたことから、公開審判を余儀なくされました。軍法会議の期間中、8 名の被告は法廷で堂々と熱弁をふるい、その内容はマスコミによって連日大々的に報道され、国内外の人々に政治改革への訴えや、自由と民主主義の理念を伝えることができました。 螢幕上的「民主人物特寫」，有更多投身黨外運動的前輩身影，您可以從螢幕輪播內容認識他們。 こちらのモニターで放映されている「民主化運動の重要人物」では、党外運動に身を投じたそのほかの人物についてもご紹介していますので、ぜひご覧ください。 如果您想多了解施明德與《美麗島雜誌社》，請按 1401。 施明徳と『美麗島雑誌社』について詳しくお知りになりたい方は、1401 を押してください。
1401	施明德與《美麗島雜誌》社 施明徳と『美麗島雑誌』社	1977 年，臺灣舉辦縣市長等五項公職人員選舉，「黨外」及無黨籍人士頗有斬獲，鼓舞了黨外運動的開展。1978 年原訂舉辦中央民意代表增額改選，黨外人士組成「臺灣黨外人士助選團」，由施明德擔任總幹事，巡迴全台助選並提出共同政見。然而，國民黨政府卻因美國宣布即將與中華民國斷交，緊急暫停當年的選舉。 1977 年、台湾では県市長など、5 つの公職選挙が行われました。「党外」及び無所属の候補者が大躍進し、党外運動の拡大が期待されました。「党外」とは、「国民党の外の人」という意味です。1978 年、中央民意代表増員改選が行われる際、党外の人々によって「台湾党外人士助選団」が組織され、施明徳氏が総幹事となり、台湾全土を巡回して選挙活動の応援を行い、共同のマニフェストを発表しました。しかし、米国が中華民国との断交を宣言したのを受けて、国民党はその年の選挙を急遽中止しました。

		為了延續黨外的力量，1979 年康寧祥、黃信介分別創立《八十年代》雜誌與《美麗島》雜誌，其中美麗島雜誌社在全臺灣廣設分社，網羅黨外人士，隱然形成一「政團」。 党外勢力を引き継ぐため、1979 年に康寧祥氏は雑誌『八十年代』を、黄信介氏は雑誌『美麗島』を創刊しました。美麗島雑誌社は台湾全土に支社を作って党外の人々を網羅し、それはまるで政治団体のようでした。 施明德為《美麗島》雜誌的總經理，負責組織發展、群眾運動及海外聯絡。他曾因涉入「臺灣獨立聯盟案」被判刑，獲釋後立即投入黨外運動，除了是《美麗島雜誌》重要成員，也是 1979 年 12 月 10 日美麗島事件遊行時的總指揮。施明德因率領群眾直接和威權體制衝撞，兩度被判處無期徒刑，坐牢時間長達 25 年餘，而有「臺灣的曼德拉」之稱。 施明徳氏は雑誌『美麗島』の執行役を務め、組織の発展や民衆運動、海外との連絡係を担いました。施明徳は「台湾独立連盟案」に関与したとして実刑判決を受けましたが、釈放後はすぐに党外運動に参加しました。雑誌『美麗島』の重要なメンバーであり、1979 年 12 月 10 日に発生した美麗島事件のデモ行進では総指揮を務めていました。施明徳は直接群衆を率いて権威主義体制と衝突したことから、2 回も無期懲役の判決を受けたため、獄中生活は 25 年もの長期に及び、「台湾のネルソン・マンデラ」とも言われます。
15	臺灣言論自由之路 V—1980s-1990s 言論箝制體制的鬆動 台湾の言論の自由への道 V—1980s-1990s 言論統制の緩和	1987 年 7 月 15 日，執政當局迫於國內外改革壓力下，臺灣解除了長達 38 年的戒嚴，但政府對言論的箝制並沒有消失。動員戡亂體制、《動員戡亂時期臨時條款》、《懲治叛亂條例》依然存在，政府並在解嚴前夕通過《動員戡亂時期國家安全法》等法律，成為日後政府繼續箝制言論自由的法律依據。 1987 年 7 月 15 日、国内外から改革を求める声が寄せられる中、政府は 38 年もの長きにわたった戒厳令を解除しましたが、言論弾圧がなくなったわけではありませんでした。反乱者を鎮圧するための総動員体制、「動員戡乱時期臨時条款」と「懲治叛乱条例」は依然として存在していた上、政府は戒厳令解除の前日「動員戡乱時期国家安全法」などの法律を制定していたので、その後も政府が言論弾圧を続けるための法的根拠になっていました。

		1990 年 3 月爆發「野百合學運」，學生提出四大訴求，要求政府展開更深入的改革。1991 年，政府宣告終止動員戡亂時期，並廢止《動員戡亂時期臨時條款》，實施 43 年的動員戡亂體制終於結束。 1990 年 3 月に「野百合学生運動」が発生しました。学生たちは「四大要求」を提起し、抜本的な改革を政府に求めました。1991 年、政府は「動員戡乱時期」の終了を宣言し、「動員戡乱時期臨時条款」も廃止しました。43 年もの間、実施されてきた総動員体制はついに終わりを迎えたのです。 同年「獨臺會案」發生，社會群情激憤，促使《懲治叛亂條例》也走入歷史。而中央研究院院士李鎮源等人發起「100 行動聯盟」，推動廢除《刑法》100 條，並在 1992 年通過修正。從此臺灣不再有「言論叛亂罪」，終於獲得進一步的言論與思想自由。 その年、「独立台湾会事件」が発生すると、世論の激しい批判が巻き起こり、それをきっかけに「懲治叛乱条例」も廃止されて、歴史の一部になりました。中央研究院の院士李鎮源などが「100 行動連盟」を結成し、「刑法」100 条の廃止を強く求め、1992 年に修正案が通過しました。この時から台湾には「言論叛乱罪」がなくなり、言論と思想の自由がようやく一歩前進しました。 從解除戒嚴、《動員戡亂時期臨時條款》及《懲治叛亂條例》的廢止，到《刑法》100 條的修正，您可以從螢幕上的「民主人物特寫」輪播內容，看到先行者們奮鬥的身影。 戒厳令解除から「動員戡乱時期臨時条款」と「懲治叛乱条例」の廃止、「刑法」100 条の改正まで、こちらのモニターで放映されている「民主化運動の重要人物」で、奮闘した先人たちの姿がご覧になれます。
16	臺灣言論自由之路 VI— 民主人物櫥窗 台湾の言論の自由への道VI—民主	看完「臺灣言論自由之路」展區中間四大時期的重要事件，側邊的展牆及相對應的 8 個櫥窗，分別介紹了楊逵、雷震、殷海光、傅正、康寧祥、黃信介、鄭南榕及 100 行動聯盟。櫥窗裡有人物肖像與簡介說明，也展示他們的手稿或著作，您可以慢慢翻閱細讀。 「台湾の言論の自由への道」で四つの時期の重要な事件についてご覧になった方は、その側にある展示パネルとそれに対応する八つの展示ケースもご覧ください。楊逵、雷震、殷海光、傅正（ふ せい）、康寧祥、黄信介、鄭南榕、100 行動連盟について紹介しています。展示ケースには各人物の肖

	化を求めた人々の姿	像と略歷があり、手書きの原稿や著作も展示されています。自由に閲覧できますので、ゆっくりとお読みください。 想知道這些民主人物更多故事，可以依照語音引導按下數字鍵，即可對應至內容選單： 台湾民主化の功労者について、もっと詳しくお知りになりたい方は、音声ガイダンスに従って数字キーを押してください。番号は次の通りです。 1601 有楊逵的介紹，以及他的孫女楊翠講述爺爺出獄後的種種； 想了解雷震與《自由中國》，請按 1602； 關於《自由中國》重要撰稿人殷海光，請按 1603； 傅正的故事，請按 1604； 有關黃信介、康寧祥與《臺灣政論》，請按 1605； 李鎮源與 100 行動聯盟，請按 1606。 1601 楊逵についてご紹介しています。楊逵の孫にあたる楊翠が、出所後の祖父についていろいろとお話しされています。 雷震と雑誌『自由中国』についてお知りになりたい方は 1602 を押してください。 雑誌『自由中国』の主な執筆者だった殷海光については 1603 を押してください。 溥正（ふ せい）のエピソードは 1604 を押してください。 黄信介と康寧祥、雑誌『台湾政論』については 1605 を押してください。 李鎮源と 100 行動連盟については 1606 を押してください。
1601	楊逵 楊逵	作家楊逵 1949 年 1 月在上海《大公報》刊登〈和平宣言〉一文，呼籲政府釋放政治犯、確保人民的言論、集會與思想的自由，觸怒了執政當局，在「四六事件」時遭到逮捕，並判刑 12 年。即便如此，楊逵並未因此磨平心志，反而在獄中繼續堅持文字創作。展櫃中的手稿〈春光關不住〉，即是楊逵被關押在綠島時的創作。這篇短篇小說，闡述抗日意識，在戒嚴時期入選國文課本，因編選者認為「春光關不住」之名不雅而將篇名改為〈壓不扁的玫瑰花〉。楊逵也因此成為第一位作品被編入國中教科書的臺灣文學作家。 1949 年 1 月、作家の楊逵氏は上海の新聞『大公報』に「和平宣言」という文章を発表して、政治犯の釈放と、人民の言論と集会、思想の自由を確保するよう政府に呼びかけました。それが当局の怒（いか）りに触れ、「四

		六事件」が発生した際に逮捕され、懲役 12 年の判決を受けました。そのような境遇となっても楊逵は志を捨てず、獄中で小説を書き続けました。こちらのケースに展示されている手書きの原稿「春の光を閉じ込めることはできない」は、楊逵が緑島に収容されていた頃の作品です。この短編の小説は抗日の意志を述べていると思われたため、戒厳時期に国語の教科書にも選出されました。しかし、編集者が「春の光を閉じ込めることはできない」というタイトルはあまりよくないと考え、作品名は「潰れないバラの花」に変更されました。この作品によって楊逵は、台湾の中学校の国語教科書に作品が採用された初の台湾人作家になりなした。 然而楊逵出獄後，卻因為政治犯的身份，有大約 10 年的時間，無法繼續發表自己的作品，失去了作家的舞台，讓我們來聽聽楊逵的家屬，楊翠女士，對爺爺這段經歷的描述…… しかし、楊逵は出獄後も政治犯として扱われたため、およそ 10 年もの間、自分の作品を発表することができず、作家としての活躍の場を失いました。ご家族の楊翠さんにこの頃のお爺様について、お話をうかがってみましょう。 「但 1962 到 1972 這之間，其實他是乏人問津的，因為當時在戒嚴時期，白色恐怖的餘波還未過去，所以其實他當時想要重返文壇，他的作品都是被退回來的，一直要到 1968 年，也就是 1960 年代末期、1970 年代初期，才開始有一些編輯願意用他的稿子，然後他也開始慢慢的重新被大家看見。」 「1962 年から 1972 年までの間、祖父は世間から放って置かれたんです。その頃は戒厳令で、まだ白色テロの余波がありましたからね。祖父は文壇に返り咲きたいと思っていましたが、作品は全て送り返されてきました。それから 1968 年まで、つまり 1960 年代の終わり、1970 年代の初め頃になってようやく何人かの編集者が、祖父が書いたものを採用してくれるようになったんです。それから、祖父もだんだんと、改めて世間に認められるようになったんです。」
1602	雷震與《自由中國》 雷震と『自由中国』	1950 年韓戰爆發，美國改變遠東戰略，積極派軍介入台灣海峽。美國對中華民國的軍事保護，有助於蔣在臺政權的穩固，卻也讓執政當局更強化對臺灣言論的箝制。 1950 年に朝鮮戦争が勃発すると、米国の極東戦略が一変し、積極的に台湾海峡に兵力を展開し介入するようになりました。中華民国に対する米国の軍事的保護は、蒋介石政権の安定に役立ちましたが、政府による言論統制もより一層強められたのです。

		面對嚴峻的處境，由雷震主導，以宣傳自由民主理念的《自由中國》雜誌，仍堅持「民主反共」，並批判政府的不當施政。1956 年，蔣中正 70 歲生日時，《自由中國》邀請海內外知識分子對當局提出建言，發行〈祝壽專號〉，隔年更以「今日的問題」為標題，刊登系列社論，全面檢討政府的施政作為。由於《自由中國》的文章多次挑戰當局的敏感神經，雷震成為情治單位重點監控的人物。 過酷な状況の中、雷震氏がリーダーとなり、自由と民主主義の理念を広めた雑誌『自由中国』は、「民主反共」の立場を貫く一方、政府の不適切な施政を批判しました。1956 年、蒋介石総統が 70 歳の誕生日を迎えた日、『自由中国』は国内外の知識人に執筆を依頼して、当局への提言をまとめた「祝賀特集号」を発行しました。その翌年、「今日（こんにち）の問題」と題した社説をシリーズで掲載し、政府の施政に関する全面的な検証を行いました。『自由中国』は当局の神経を逆撫でするような文章をしばしば掲載したため、雷震は情報機関がその動向を特に監視する、要注意人物とされました。 1960 年，雷震強力反對蔣中正違憲連任三次總統，並積極參與組織反對黨，觸及執政當局的底線，終至被捕。然而，軍事法庭最後卻因蔣中正介入判決、主導量刑，宣判雷震的刑期為有期徒刑 10 年，而伴隨著雷震等人的入獄，《自由中國》也被迫停刊。 1960 年、雷震は蒋介石総統が 3 期連続して総統の座につくのは憲法違反だと、強く反対しました。また、野党の結党にも積極的に参与したため、当局が容認できる限度を超えてしまい、終に逮捕されました。しかし、軍事法廷で判決が下される前に蒋介石総統が介入したため量刑が決められ、雷震は懲役 10 年に処せられました。雷震らの服役に伴い、『自由中国』も発行停止に追い込まれました。
1603	殷海光 殷海光	殷海光曾是國民黨員，在黨報《中央日報》任職。1949 年來台後，由於對黨內作風不滿，因而離職轉往台大哲學系任教，同時為《自由中國》撰寫文章，犀利的筆鋒屢屢觸怒執政黨當局。 かつて国民党員だった殷海光氏は、国民党機関紙『中央日報』の編集部で働いていました。1949 年に来台以降、党内のやり方に不満を持ち、離職後は台湾大学哲学系で教鞭を執るようになりました。それと同時に雑誌『自由中国』の執筆陣に加わり、筆鋒鋭い論評がしばしば当局の怒りを買いました。

		1960 年，雷震因組黨運動被捕，殷海光雖然免於牢獄之災，此後卻一直受到情治單位監控。他不但不畏懼，仍繼續為《民主潮》等反對雜誌撰文，出版推行自由民主理念的書籍。 1960 年、雷震氏は結党活動で逮捕され、殷海光氏は逮捕と服役は免れましたものの、その後は常に情報機関に監視されるようになりました。それでも殷海光は怯（ひる）むことなく、『民主潮』など反政府系の雑誌で意見を発表し、自由と民主主義の理念に関する書籍を出版しました。 1966 年，教育部要求台大不再續聘殷海光，他被迫離開教學的舞台，執政黨當局還威嚇出版社，斷絕殷海光的版稅收入，甚至在美國哈佛大學邀請殷海光前往研究時，也不讓他出境，種種行為都讓殷海光的生活備受壓抑，最後抑鬱成疾，於 1969 年未滿 50 歲便因胃癌逝世。 1966 年、教育部が台湾大学に殷海光の雇用を継続しないよう求めたため、殷海光は教育の場から締め出されてしまいました。それだけでは終わらず、政府は出版社にも圧力をかけ、殷海光の印税収入を断ちました。米国のハーバード大学に研究者として招かれた際も、米国へ向かおうとしていた殷海光は出国できませんでした。これら数々の妨害行為は全て、殷海光の生活を圧迫することになり、鬱々とした日々の中で病（やまい）を患（わずら）った殷海光は、1969 年、50 歳の誕生日を迎える前に胃癌で世を去りました。 殷海光是 1950、60 年代臺灣最有影響力的知識份子，為引介自由主義來臺的先驅者之一，對臺灣民主運動影響深遠，被倫敦《中國季刊》推崇為「臺灣自由思想的領袖」。 1950 年代から 60 年代にかけて、殷海光は台湾で最も影響力のある知識人であり、台湾で自由主義を説（と）いた先駆者の一人として、台湾の民主化運動に大きな影響を与えました。イギリスの『中国季刊』という学術誌でも「台湾の自由思想のリーダー」と讃えられました。
1604	傅正 傅正	在戒嚴體制下，傅正是極少數跨世代參與「中國民主黨」與「民主進步黨」的創黨運動者。 戒厳令下の台湾で、傅正氏は時代を超えて「中国民主党」と「民主進歩党」に参加し、政党創設に直接関わった極めて稀な政治活動家の一人です。 傅正在少年時期就加入國民黨，1950 年隨著國軍撤退來台，曾在露宿高雄街頭時，感慨的對同學說，但願國民黨能吸取教訓、大徹大悟。後來他進入台

		大政治系就讀，就學期間，經常在《自由中國》發表文章，對時局提出批評，並受邀成為雜誌編輯。 傅正は少年期に国民党党員になりました。1950 年、台湾に撤退する国民党軍に従って来台しました。高雄で野宿していた頃、「国民党は教訓を得て、目を覚ましてほしい」と、感慨深げに同級生に語ったそうです。その後、傅正は国立台湾大学政治学科に入学しました。在学中は『自由中国』で頻繁に文章を発表し、時局を批判するだけでなく、のちに雑誌の編集者として迎えられました。 1960 年傅正追隨雷震籌組「中國民主黨」，與雷震同日被捕。傅正被判處三年感化，但感訓期滿後，當局並未釋放他，反而再處三年感化，直到 1966 年才終於恢復自由。 1960 年、傅正は「中国民主党」を結成しようとしていた雷震に付き従い、また雷震氏と同じ日に逮捕されました。傅正は 3 年の思想教育に処されましたが、教育期間が満了しても、政府は傅正を釈放せず、更に 3 年の思想教育が課せられ、1966 年になってようやく自由を取り戻しました。 1972 年，傅正協助雷震完成〈救亡圖存獻議〉一文，期盼執政黨當局能夠做出改革，但結果仍舊讓他失望。直到 1979 年受到雷震去世與美麗島事件的衝擊，傅正決定加入黨外運動，並於 1986 年再度投身創黨運動，成為民主進步黨的創黨元老之一。 1972 年、傅正は雷震の執筆を手伝って「国家救亡献議」という論文を完成させ、政府が改革を進めることを期待しましたが、従来同様の結果に失望を感じました。1979 年、雷震の逝去と美麗島事件の発生に衝撃を受け、傅正も党外活動に参加する決意を固め、1986 年に政党創設活動に再び身を投じ、民主進歩党の創設者の一人となりました。
1605	黃信介、康寧祥與《臺灣政論》 黄信介、康寧祥と『台湾政論』	1971 年中華民國聯合國代表權，被中華人民共和國取代，於是在蔣經國接班前後，面對內外的政局動盪，為了強化中華民國在臺灣統治的正當性，執政當局開始了有限度的改革。 1971 年、中華民国が持つ国連での「中国」の代表権は中華人民共和国に取って代わられました。そのため、蒋経国氏が蒋介石氏の地位を継承した前後は、内外の政局に走る激動に直面し、中華民国による台湾統治の正当性を強化するため、政府は制限付きの改革に着手しました。 當時，主張改革的臺灣知識份子及在野派人士，主要透過輿論與出版品表達訴求與建言，例如《大學雜誌》便是當時主張政治改革的代表性刊物。它不僅記錄了中華民國政府在面對退出聯合國、中日建交等事件的處理方式與社

		會輿論，也反映出 1970 年代知識份子對保護釣魚台運動、中央民意代表全面改選、以及台灣軍事戒嚴時期等各種社會問題的意見。可惜在蔣經國接班底定後，《大學雜誌》的言論立即遭到壓制，並且被迫改組。 当時、改革を主張する台湾の知識人や野党の名士たちは、主に言論と出版物によって要求や提言を伝えていました。一例を挙げると、『大学雜誌』は政治改革を主張した代表的な刊行物です。この雑誌には、中華民国政府の国連脱退や、日中国交回復などの出来事に関して、台湾の対処や世論などが記録されています。また、1970 年代の知識人が、尖閣列島死守運動や国会議員の全面改選、戒厳令下における様々な社会問題をどう捉えたかも掲載されています。しかし、残念なことに、蒋経国政権が安定すると、『大学雑誌』の言論はすぐさま弾圧され、組織改革を迫られました。 1975 年，黃信介與康寧祥共同創辦《臺灣政論》，原在《大學雜誌》擔任編輯委員的張俊宏擔任總編，這是戰後第一個以「臺灣」為名的政論雜誌，也是第一本臺灣本土菁英創辦、主導的黨外雜誌，從創刊開始就締造銷售紀錄，在 1975 年立法委員選舉期間，成為黨外人士表達訴求的重要平台。因言論較為激烈，執政當局以刊登文章涉嫌煽動他人叛亂為由，將雜誌停刊，僅發行五期的《臺灣政論》被迫畫下句點。這份雜誌開啟了黨外運動結合黨外雜誌的先河，對後來的黨外民主運動影響深遠。 1975 年、黄信介氏と康寧祥氏の二人が『台湾政論』という雑誌を創刊しました。以前は『大学雑誌』の編集委員だった張俊宏氏が編集長を務めました。この雑誌は書名に「台湾」の名が入った戦後初の政論誌で、台湾の知識人が創刊し主導した、初めての党外雑誌でもありました。創刊当初から発行部数を大きく伸ばし、1975 年に行われた立法委員選挙期間中は、国民党外の人々が政治への要望を発表する大切な場にもなりました。この雑誌の言論は過激な傾向があり、反政府運動を扇動している疑いがあるとして発行停止処分を下しました。『台湾政論』はわずか 5 冊で、終止符を打たざるを得ませんでした。『台湾政論』は民主化運動と党外雑誌を結び付けた先駆となり、この後の党外民主運動に絶大な影響を与えました。
1606	李鎮源與 100 行動聯盟 李鎮源と 100 行動聯盟	1987 年，蔣經國總統簽署總統令宣告解嚴，台灣結束了長達 38 年戒嚴統治時期。 1987 年、蒋経国総統が総統令に署名し、戒厳令の解除が宣言されました。台湾で 38 年もの長期に及んだ戒厳令下の統治が終わりを迎えました。 1991 年，李登輝總統宣布終止動員戡亂、廢除《動員戡亂臨時條款》。但同年 5 月隨即發生獨台會事件，情治單位以加入「獨立台灣會」名義，直入清

		華大學校園逮捕學生廖偉程。這起事件引發上千名學生在台北車站靜坐抗議，促使立法院進一步廢除《懲治叛亂條例》。然而，儘管如此，人民還是有可能因思想言論而觸犯刑法內亂罪，包括獨臺會涉案的人員，以及其他政治異議人士，仍持續被以內亂罪名起訴或判刑，而這些案件，都和《刑法》第 100 條密切相關。 1991 年、李登輝総統が「動員戡乱時期」、すなわち反乱平定時期の終了を宣言し、『動員戡乱臨時条款』も廃止されました。しかし、その年の 5 月、時を移さず「独立台湾会事件」が発生し、情報機関は「台湾独立会」への加入を理由に、清華大学のキャンパスに乗り込み、学生の廖偉程を逮捕しました。この事件は、千人もの学生たちが台北駅で座り込む抗議活動に拡大し、立法院は『懲治叛乱条例』も廃止せざるを得ない。しかし、それでも思想や言論により、刑法の内乱罪に問われる可能性がありました。その後も独立台湾会のメンバーや、その他の政治活動家は内乱罪で起訴され、判決を下されました。しかもこれらの事件は全て『刑法』第 100 条と密接に関連していました。 因此，在中研院院士李鎮源與陳師孟、林山田及廖宜恩等教授號召下，成立「100 行動聯盟」，要求廢止《刑法》第 100 條，他們以靜坐、非暴力抗爭的方式，表達自己的訴求，這些先行者的身影，被忠實地記錄下來，成為您眼前的影像畫面。在「100 行動聯盟」的努力及社會持續呼籲下，立法院在 1992 年通過《刑法》第 100 條修正案，言論箝制的最後一道枷鎖終於解除。 そのため、中央研究院の院士研究員だった李鎮源氏と陳師孟、林山田、廖宜恩教授などの呼びかけによって「100 行動聯盟」が組織され、『刑法』第 100 条の廃止を求めました。「100 行動聯盟」は座り込みや非暴力闘争によって、訴えを伝えました。こうした先駆者たちの姿は忠実に記録され、今、皆さんがご覧になっている映像として残されています。「100 行動聯盟」の努力と社会全体の呼びかけにより、1992 年、立法院で『刑法』第 100 条修正案が通過し、言論を弾圧する最後の制約がついに取り除かれました。
17	創傷 I 傷あと I	接下來這個展區名為「創傷」，是指國家暴力對政治案件當事人及其家庭不同世代成員造成在個人心理、家庭關係與各種社會關係的重大傷害與撕裂。 こちらのセクションは「傷あと」と題されています。「傷あと」とは、政治事件の当事者と世代を異にする親族たちが、国家の暴力によって心に受けた傷や、家庭での関係、社会との様々な繋がりにも深刻な傷あとが残され、引き裂かれたことを指しています。

		首先，我們從八位政治受難者的生命劇場投影內容開始看起，包括陳欽生、黃祖權、梁令惠、張皆得、柯旗化、陳孟和、蔡焜霖、丁窈窕。為讓您快速瞭解他們所遭遇的人生，展覽以劇場一幕幕場景來呈現他們的生命故事，您可以點選觸控螢幕，逐一了解威權時代的政治暴力如何改變這 8 位受難者的人生。 まずは、政治的迫害を受けた 8 名の受難者の命の物語をご覧ください。こちらでは、陳欽生、黄祖権、梁令恵、張皆得、柯旗化、陳孟和、蔡焜霖、丁窈窕について紹介しています。この 8 名の生涯については、それぞれの場面ごとにわかりやすく展示しております。タッチパネル式のモニターでご覧になりたい人物を選んでください。権威主義時代の政治暴力がどのようにしてこの 8 名の受難者の人生を変えてしまったのか、おわかりいただけるでしょう。 在這個展區幽幽迴盪的歌聲，是政治受難者蔡焜霖前輩所唱的日文歌曲〈千風之歌〉，歌詞意涵是告慰在世的親友別為逝者悲傷，亡者並沒有離去，而是化作微風、以另一種形式守護摯愛。這首歌也是很多政治受難者為難友送行的歌曲，蔡前輩曾說，每次唱〈千風之歌〉這首歌，都會覺得，那些不幸被殺害的政治受難者，好像化為千縷微風，並沒有離開我們。 こちらのセクションで流れている歌声は、政治的迫害の受難者の一人、蔡焜霖さんが歌う日本語の曲「千の風になって」です。この歌の歌詞は、「世を去った人のために悲しむべきではない。亡くなった人はいなくなったわけではなく、やさしいそよ風となって、別の形で愛する人たちを守っているのだから」と、残された友人たちを慰める内容となっています。この歌は多くの政治的受難者たちがかつての仲間を追悼する歌でもあります。蔡さんは次のように述べています。「この『千の風になって』を歌うたびに、あの不幸にも殺害されてしまった受難者たちが本当に千の風になって、私たちから離れず、そこにいるような気がするんです。」
18	創傷 II 傷あと II	接著，您可以看到牆上一片片透光木板上的書信，這些書信是白色恐怖受難者寫給家人的家書與遺書，現場有宋盛淼、蔡焜霖、鍾興福、羅文通、涂炳榔、柯旗化、魏廷朝、黃溫恭、陳中統、葉盛吉、高一生共 11 位受難者的書信。 こちらでは、壁に設置された透明木板に貼られた手紙をご覧ください。これらの手紙は白色テロの受難者が書いた家族宛ての手紙や遺書です。こちらには、宋盛淼（そう せいびょう）、蔡焜霖、鍾興福、羅文通、涂炳榔

		（と へいろう）、柯旗化、魏廷朝、黃温恭、陳中統、葉盛吉、高一生—11名の受難者の手紙が展示されています。 例如：《新英文法》作者柯旗化，兩度遭判刑入獄。出獄後，仍以「思想偏激」為由被送往綠島進行新生感訓，前後遭受長達 17 年牢獄折磨。其間，柯師母只能以「父親出國留學」向孩子隱瞞真相，並透過書信維繫親情。這封柯爸爸入獄期間寫給幼兒的信特別標註注音符號，字字句句都是對家人滿滿的思念與關愛。 例えば、『新英文法』の作者 柯旗化さんは 2 回も刑務所に収監されました。出所後にまた「著しい思想の偏り」を理由に更生施設の緑島へ送られ、合わせて 17 年もの間、収容されていました。その間、柯さんの奥さんは「お父さんは外国に留学している」と、子どもには事実を隠して伝え、手紙のやり取りで親子の絆を繋ぐしかありませんでした。服役中だった柯さんが幼い子ども宛てに書いた手紙には、わざわざ注音符号(ちゅういんふごう)をつけています。一字一句に家族への思いや愛情が満ち溢れています。 再如：魏廷朝因美麗島事件第三次入獄時，兒子魏新奇才一歲半，女兒魏筠尚未出生。他在獄中寫下一封封家書，努力填補爸爸不在家的空缺。在信裡，他叫兒子「大可」、女兒是「小筠」。孩子年紀小，他擔心孩子看不懂國字，信上會標註注音符號。信件內容除了關心孩子成長，也講述家族往事、歷史故事、伊索寓言等，用這些故事帶孩子認識世界，每封信最後都寫著「祝你快樂」，充滿父親對孩子的關愛，以及無法陪伴的遺憾。 魏廷朝さんが美麗島事件で逮捕されて 3 回目の服役となった時、息子の魏新奇さんはまだ 1 歳半で、娘の魏筠（ぎ いん）さんはまだ生まれていませんでした。魏さんが獄中で家族宛てに書いた何通もの手紙は、父親の不在をなんとかして埋めようとしたものです。この手紙の中で、魏さんは息子さんを「大可」、娘さんを「小筠」と呼んでいます。幼い子どもたちはまだ漢字が読めないのではないかと心配して、注音符号(ちゅういんふごう)がつけられています。手紙の内容は、子どもたちの成長を気にかけ、家族の昔話や歴史上の逸話、イソップ物語などで、子どもたちがこの手紙を読むことで、いろいろな世界が理解できるように書かれています。手紙の最後には必ず「幸せを願っています」と書いてあり、父親の子どもたちへの深い愛情や、そばにいてやれない無念さが伝わってきます。

		在獄中的書信往來，信件會被拆開檢查，甚至還有字數限制，您可以從信上蓋印的章戳，看到當時的監管情形。 獄中では、手紙は全て開封されて検閲を受けただけでなく、文字数の制限までありました。手紙に押された検閲印が当時の監視の厳しさを物語っています。
19	創傷 III 傷あとⅢ	1950 至 1970 年間，政治犯於等候判決時所寫的書信，大多能寄回家中，唯獨槍決前夕寫的遺書，會被國家系統性地沒收，成為案件卷宗裡的一紙「檔案」。直到數十年後，有政治犯家屬偶然發現塵封在檔案櫃中的家人遺書，開始積極推動「歸還遺書運動」，經過多年努力，2011 年，政府才將遺書原件或副本歸還給家屬。接下來要說的，就是受難者黃溫恭的遺書。 1950 年から 1970 年までは、政治犯が判決を待つ間に書いた手紙のほとんどは家に届けられましたが、処刑の前夜に書いた遺書だけは規則として国家が没収し、事件記録の中の「公文書」（こうぶんしょ）の一つになりました。それから数十年後、政治犯の親族が書類棚に置きっぱなしになっていた家族の遺書を偶然発見し、「遺書返還運動」を積極的に展開しました。長年の努力が実り、2011 年に政府から遺書の原本、または副本が親族に返却されました。次に、受難者の黄温恭さんの遺書についてご紹介します。 2008 年，受難者黃溫恭的外孫女張旖容在檔案管理局保存的資料中，意外發現外公留下的五封遺書，其中一封遺書是給張旖容的母親，也就是黃溫恭從未謀面的小女兒黃春蘭。當黃春蘭拿到遲來 56 年的父親遺書時說：第一次感覺到自己是有爸爸的。 2008 年、受難者の黄温恭さんの外孫（そとまご）にあたる張旖容（ちょういよう）さんが、公文書管理局に保存されている資料の中に、祖父が残した 5 通の遺書が含まれているのを発見しました。その中の 1 通は張さんのお母さん宛てでした。黄温恭さんが一度も会えなかった幼い娘の黄春蘭さんです。56 年もの歳月を経て、ようやく父親の遺書を手にした黄春蘭さんは、その時、こう言いました。「自分には父親がいるんだと、初めて感じました。」 展覽一開始所介紹的投影短片，影片尾聲有一小段日文歌曲〈長春花〉，創作者就是曾任阿里山鄉長的鄒族領袖高一生，1952 年因涉白色恐怖案件遭逮捕，兩年後槍決。牆上許多以日文書寫的信件，是他在被關押期間對妻子與兒女的深切思念。

		こちらのセクションで最初にご覧になった短編映像のエンディングに流れた日本語の歌「長春花」は、阿里山鄉長を務め、ツォウ族の指導者的存在でもあった高一生の作品です。1952 年に白色テロにより逮捕され、その 2 年後に銃殺されました。こちらのパネルにたくさん展示されている日本語の手紙には、獄中で妻子を思う気持ちが綴られています。 高一生被處極刑前的最後一封家書，是以日文書寫：「思慕的春芳：得知妳也健康，比什麼都好。『不管白銀、黃金、寶玉如何珍貴，不及兒女珍貴』記得這和歌吧。只要有家和土地就好。.....我的冤罪，以後會昭明。.....水田不要賣。」 高一生が極刑に処される前に家族宛てに書いた手紙には、日本語で次のように記されていました。「なつかしい春芳。あなたも元気で何よりです。『白銀（しろがね）も黄金（こがね）も玉（たま）も何せんに 勝（まさ）れる宝 子に如（し）かめやも』此の歌覚えてゐますね。家と土地さへあれば好（い）いです。立派な子供が澤山（たくさん）居るから。……私の無實なことが後で分ります。……水田賣（う）らない様に。」 這邊備有空白的信紙與原子筆讓遊客自由書寫，您可以看到牆上滿是真情流露的手寫書信，看展民眾主動留下的感想心得，意外成為「自由花蕊」另一種展覽風景，也創造出觀眾與觀眾對話的空間；這些留言經過整理及中英文翻譯，在下一個展區的電視輪播呈現。歡迎您也提筆寫信，留下任何您想說的話。 こちらには何も書かれていない便箋とボールペンが用意してあります。ここの壁には書き手の思いが溢れる手書きの手紙が貼られています。このセクションを見た皆さんが書き残した感想です。意外にもこれが「自由の花」のもう一つの展示風景になっています。そして、来場者同士が対話する場を生み出しています。これらのメッセージはまとめられて英語にも翻訳され、次の展示エリアのテレビで放映されています。ぜひ皆さんもペンをとって、伝えたいことを書き残してください。
20	創傷 IV 傷あとIV	展牆上的油畫《消失的家人》系列作品，是政治受難者兼人權藝術家陳武鎮的創作。 こちらのパネルに掛けられた油絵は《消えた家族》シリーズの作品です。政治的受難者であり、人権活動家でもあった画家の陳武鎮が描いた絵です。

		陳武鎮 1949 年出生於屏東萬巒，師專畢業後原本要成為美術教師的他，因為入伍時在性向測驗問卷背面寫下「反中央、反對國民黨」八個字而被判處 2 年有期徒刑。出獄後，為了保住教職、保護家人，他一度停止作畫，直到 1980 年代後才開始繼續創作。 陳武鎮は 1949 年に屏東県（へいとうけん）万巒郷（ばんらんきょう）に生まれました。師範専科学校卒業後は美術教師になるつもりでしたが、軍の入隊時に受けた適性検査の質問票の裏に「反中央、反対国民党」と書いたせいで懲役 2 年の判決を受けました。出所後は教員の職と家族を守るために、一度は絵を描くのをやめましたが、1980 年代以降、再び創作を始めました。 這批《消失的家人》系列作品，都是以雙拼畫作呈現，透過左右油畫的對照與連結，帶觀眾走進受難者的家庭。這系列的左邊畫作，都有一個刻意挖空的灰白人影，象徵在家庭合照中永遠缺席的受難者。右邊畫作則描繪受難者浮腫的手、或殘缺的腳等死亡意象。畫中人物模糊的臉部表情，是陳武鎮作品的特色之一，象徵這並非單一個案，而是當時許多家庭共同面臨的絕境。 この《消えた家族》と題されたシリーズ作品は 2 枚 1 組になっています。左右に並べられた油彩画を比べて見ることで、観る者は受難者の家庭へと導かれます。このシリーズの左側の絵には、意図的に繰り抜かれたような灰白色のシルエットがあります。このシルエットは家族写真から永遠に姿を消した受難者を表しています。右側の絵には受難者の腫れ上がった手や、切断された足など、死を連想させるイメージが描かれています。絵の中の人物の顔がぼんやりと描かれているのも陳武鎮作品の特徴の一つで、特定の事件を表しているものではなく、当時、多くの家庭が直面していた絶望的な状況が象徴的に表現されています。 在台灣，以作品回應白色恐怖的創作者，還有許多人，例如歐陽劍華、歐陽文、陳列、潘小俠等等，他們都以不同形式留下自身經歷或時代傷痕。 台湾には、作品で白色テロを表現する創作者は他にも大勢います。例えば、欧陽剣華や欧陽文、陳列、潘小俠などです。それぞれ違った形式で自分の経験やこの時代の傷あとを作品に残しています。
21	結語 終わりに	1990 年代，台灣完成國會全面改選、總統直選等民主化工程。2025 年「自由之家」的自由度評比中，臺灣整體自由度高居亞洲第二名。然而，臺灣長期以來一直是境外假資訊攻擊最嚴重的民主國家之一，境外敵對勢力持續進

		行認知作戰，例如「網路水軍」藉由社交媒體擴散，操控公共議題，逐漸侵蝕人民對政府的信任，成為臺灣民主體制持續面臨的重要挑戰。 1990 年代、台湾は国会の全面改選や、総統の直接選挙など、民主化へのプロセスを完了させました。2025 年、米国の NGO「フリーダム・ハウス」が発表する各国別自由度評価で、台湾はアジア第 2 位となっています。しかし、台湾は長年にわたって、国外からの偽情報攻撃の脅威に晒されている民主国家の一つで、国外の敵対勢力から継続的に認知戦を仕掛けられいます。例えば、ネット上の工作部隊が公的なテーマについて工作を行い、SNS を利用して拡散することで、国民の政府に対する信頼が徐々に蝕まれ、台湾の民主主義体制にとって深刻な問題となっています。 20 世紀的歷史教訓告訴我們，民主制度並非一旦建立就能長治久安。如果民主只實踐在投票那一天，而缺乏制度保障，就可能被極權或民粹吞噬。培養「民主韌性」可以從日常生活做起，例如查證資訊、避免假訊息傳播，關心社會議題、參與公共討論，這些行動都能讓民主制度更加穩固，也向世界展現台灣守護民主的決心。 20 世紀の歴史の教訓が私たちに教えているのは、民主主義体制とは一旦確立されたとしても、永続的な安定が保障されているわけではないということです。民主主義が選挙の投票日にのみ実施され、制度的な保障を欠いている場合、全体主義やポピュリズムに呑み込まれてしまうかもしれません。「民主的な強靭さ」の強化は、日常生活から始めることができます。例えば、情報を精査してフェイクニュースを拡散しない、社会問題に関心を持ち、公的なテーマをめぐる議論に参加するなど、こうした行動が民主主義体制をより強固なものにし、民主主義を守るという台湾の固い決意を世界に示すことができるでしょう。 展覽最後，請您再往前走到下一展區，裡面有許多當代有關民主自由人權議題的書籍、漫畫、繪本、影視音作品等。出生於捷克、流亡法國的作家米蘭．昆德拉曾說：「人類對抗權力的鬥爭，就是記憶與遺忘的鬥爭」。我們希望透過各式各樣的書寫，傳承珍貴的民主自由價值；也歡迎與大家分享您的國家的故事，期待自由花蕊能在世界各地持續綻放。 それでは最後に次のエリアへとお進みください。こちらでは民主主義や自由、人権をテーマにした現代の書籍や漫画、絵本、音楽、映像作品などを多数揃えております。チェコに生まれ、フランスに亡命した作家ミラン・クンデラは次のように述べています。「権力に対する人間の闘いとは、忘却に対する記憶の闘いである。」私たちは様々な形式の文章を通して、何

		よりも大切な民主主義や自由の価値を伝えていきたいと思っています。皆さまがたも自国の物語を多くの人々に伝えてください。自由の花が世界各地で花開くことを願っています。
--	認識中正紀念堂 中正紀念堂について	歡迎來到中正紀念堂。 中正紀念堂落成於 1980 年，是台灣在戒嚴時期，為了紀念、緬懷曾擔任中華民國第 1 任至第 5 任總統的蔣中正所蓋的特殊時代建築。 中正紀念堂へようこそ。 中正紀念堂は、まだ台湾に戒厳令が敷かれていた 1980 年に落成しました。中華民国総統を初代から第 5 代まで務めた蒋介石を偲び、記念するために建造された、あの特殊な時代を象徴的に表す建築物です。 1987 年台灣解除戒嚴以來，無數的社會運動在此匯集，這個莊嚴肅穆的空間，逐漸轉化為人民力量集結的廣場，也將曾經服務於個人崇拜的紀念空間，重塑為全民共享的「自由廣場」。這段歷程見證了臺灣如何從黨國體制，轉型為自由開放的民主社會。 1987 年に戒厳令が解除されると、数え切れないほどの社会運動がこの場所で行われました。この厳粛で荘重（そうちょう）な雰囲気を持つ空間は、次第に民衆のパワーが集結する広場へと変容し、かつては個人崇拝のために建造されたこの記念碑的な場所が、全ての民衆が共有する「自由広場」へと変貌を遂げて、生まれ変わったのです。この歴史的過程は、台湾がどのようにして党国体制から自由で開放的な民主社会へと変化してきたのかを示しています。 如今，中正紀念堂正逐步轉型為「民主教育園區」。人們不再是為了歌頌強人而來，而是為了理解這段從黑暗走向光明的歷程。「自由花蕊」常設展，正是這場空間意義翻轉的具體呈現。展覽不僅呈現了前輩們爭取民主的艱難過程，更強調自由如同花蕊般燦爛卻也脆弱，需要每一代人的守護 。 現在、中正記念堂は徐々に「民主教育の場」へと変貌を遂げようとしています。人々は強権をふるう権力者を称賛するためではなく、暗闇から光明（こうみょう）へと向かった歩みを理解するために訪れるのです。常設展「自由の花」では、この場所の存在意義の転換が具体的に表したものです。この常設展では、先人たちが民主主義を勝ち取るために歩んだ困難な道のりが示されているだけでなく、自由は花のように輝かしくも儚く、世代を超えて守り伝えていかなければならないことを強く訴えています。

		常設展廳，有 2 個主題展覽，「自由花蕊」，「蔣中正總統與中華民國」。這兩檔看似反差極大的展覽，並存在同一空間，呈現不同視角的歷史，也顯現出台灣社會結構的特殊與民主自由的價值。 常設展ホールで行われている展示には「自由の花蕊」と「蒋介石総統と中華民国」二つのテーマがあります。同じ空間に存在するこの二つの展示は、一見すると対照的な内容に思えますが、異なる視点から歴史を見つめ直すことで、台湾の社会構造の特殊性や、民主主義と自由の価値を浮き彫りにしています。 我們期待透過持續的共同思考、更多的社會溝通，累積台灣內部及與國際觀眾的對話，讓這個曾經是威權崇拜的空間，轉變為彰顯民主價值與落實民主教育的園區。 私たちは、社会全体でともに思考を深め、より多くの議論の機会を提供して相互理解を促進しつつ、台湾国内はもちろんのこと、世界各国の人々との対話を積み重ねることで、以前は権威主義的な崇拝の場であったこの空間が、民主主義的価値観が重んじられ、民主教育がしっかりと根付く園区へと生まれ変われるよう願っています。